B07 マダニ由来の紅斑熱群リケッチア株に対する石川県能登半島の地域住民および野鼠血清の反応性

及川陽三郎[○]、池田照明（金沢医大・医動物）、藤田博己（大原研究所）、
高田伸弘（福井医大・免疫・寄生虫）

Reactivity of the sera of human and wild rats in Noto Peninsula, Ishikawa Prefecture against a few strains of spotted fever group rickettsiae isolated from ticks.

Oikawa Y., Ikeda T., Fujita H. and Takada N.

先に演者らは石川県能登半島で地域住民の6.7%および野鼠の81.8%に日本紅斑熱リケッチア *Rickettsia japonica* 青木株と反応するIgG抗体の上昇を認めた。しかし同地方には未だ紅斑熱症例の報告はなく、これらの抗体は、*R. japonica*と異なり人に対し病原性がな
いか弱いところの紅斑熱群リケッチア（SFGR）の抗原感作による可能性も考えられた。
そこで今回は、マダニにより分離された2、3の未だ病原性不明なSFGR株に対する人お
よび野鼠血清の反応を調べ、*R. japonica*青木株に対する反応性と比較した。その結果、
マダニ由来SFGRに対する反応は、人血清では青木株に対する反応より弱かったが、野鼠
血清では青木株に対する反応とほぼ同等あるいはやや弱い程度だった。すなわち、能登半
島地域住民がこれらのマダニ由来SFGR抗原に感作されている可能性は低いと思われた。

B08 血液ろ紙を用いた野鼠の紅斑熱群リケッチアに対する間接蛍光抗体法による抗体価調査

太田真由美[○] 中嶋智子 降井佐太郎（京都府保環研環境衛生課）

Prevalence of Antibodies against Spotted Fever Group Rickettsia in Wild Rodents by Indirect Immunofluorescence Antibody Assay using Filter Paper Blood Specimens

Mayumi ohta Satoko nakajima Sataro furui

日本紅斑熱は主として太平洋側で発生が見られるが、島根県等、一部日本海側でも見られる。京都府においても恙虫病が疑われた不明熱患者が血清検査で恙虫病を否定される例があり、日本紅斑熱の存在は否定できない。そこで府内で捕獲した野鼠の保存血液ろ紙を用いて間接蛍光抗体法による紅斑熱群リケッチアに対する抗体保有状況を調査した。1994年から1997年までに13地点で捕獲したアカネズミ52匹、ハタネズミ48匹を調査した結果、全体では約70%の野鼠から抗体が検出された。鼠の種類別に見ると、ハタネズミが50%以下であったのに対し、アカネズミは100%の検出率であった。又、アカネズミの方が抗体価が高い傾向があった。恙虫病が多発している地域と他の地域の間では、紅斑熱群リケッチアに対する抗体検出率に差は見られなかった。